

偉大な存在

岐阜市立境川中学校 3年
表 実莉（おもてみのり）

「新型コロナウイルス」。何度この言葉を聞いたことでしょう。

年度末を示す、カウントダウンカレンダーが順調にめくられていた頃、テレビで「全国一斉休校」の文字を見て、私は状況が飲み込めず、呆然としていました。

感染が続き、1年以上経った今もなお、収まる気配はありません。

そんな中、伝わってくる医療従事者の映像やニュースに、いやがおうにも注目が集まります。私もその一人でした。「大変そう……。」そう思うと同時に、何が起きているのか、もっと知りたいと思いました。

そこで私は、インターネットで世界のコロナウイルスについての情報や奮闘する医師たちの様子を調べました。そして、アメリカに住むジョセフ・バロン医師を知りました。彼は、コロナ禍で250日以上連続勤務をしていました。そして、取り乱した高齢コロナ患者を抱きしめている写真が公開され、話題になった人でもあります。

患者の気の抜けたような身体、支えるバロン医師の虚ろな目。その写真の全てがコロナウイルス感染症の恐ろしさを物語っていました。同時に、患者はバロン医師を信頼しきって、身を任せているような感じもしました。その後、患者は落ち着きを取り戻し、回復に向かっていったと言います。医師は病気を治すだけではない、もっと大きな存在だと感じました。今、この状況で、医療従事者がどれだけ自分を犠牲にして頑張ってくださっているのか、もっと多くの人に知ってもらえたらよいと思います。

私が医療従事者の仕事や、在り方に興味があるのは、幼い頃の経験からのことです。幼い頃は体が弱く、ある小児科医師にお世話になっていました。自分の体に点滴や注射の針が刺されるのは、とても不安でした。ですが、先生はいつも優しく声をかけてくださり、安心できたことを覚えています。その先生のことを、幼いながらに信頼していたのでしょう。先ほどのバロン医師の話でも、患者はバロン医師を信頼していたと思います。そうでないと、とても全てを任せることはできません。

小学校に上がり、私は医師になりたいと思い始めました。誰かの役に立つ仕事をするのは好きだったし、誰かのために頑張れる自分になりたいと思っていました。さらにこのコロナ禍で、医師の活躍を知ることができ、社会における医療従事者の役割について考えることができました。

医療に関わる仕事をしよう。責任の重い仕事を任されるような信頼される人になろうという思いがはっきりしてきたのは、ここ1年間ぐらいのことです。

では、信頼される人とはどのような人なのでしょう。バロン医師、お世話になった小児科の先生……。この人たちはとても優しく信頼できる人です。弱い人に対しては、温かい眼差しと声かけがありました。

目の前のことから逃げないこと、誰かの意見に流されないこと、人を大切にすること。信頼される人になるために必要なことは、たくさんあります。私自身の今のあり方を考えると、人を大切にすること、それも特定の誰かというのではなく、人との関わりそのものを大切にしていけることが、重要だと思います。

私は今中学3年生です。今の中学生の人間関係を考えてみると、噂を真に受けて距離をおいたり、一部だけを見て「苦手だ」などと決めつけたりすることが多いと感じます。私も例外ではありません。このようなことが、いじめとつながっていくこともあるでしょう。誰に対しても決めつけた見方をしないで関わり、仲間を大切にしていける。私はそう決意しています。

誰に対しても優しく信頼される人になることは、厳しい現実の中で、責任の重い仕事を任せられ働くという私の夢に近づく一歩だと考え、これからも生活していきます。